

ねぎ

1 作型

月	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	秋冬どり 																	
	秋まき夏どり 																	

月	10			11			12			1			2			3		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	秋冬どり 																	
	秋まき夏どり 																	

：播種 ：定植 ：収穫

アピールポイント

- ・出荷時期：7月中旬～9月上旬、11月中旬～2月下旬。
- ・ビタミンB、C、カルシウム、リンなどを含んだ日本料理に欠かせない野菜です。
- ・霜などの寒さが加わると、糖度が増しさらにおいしいくなります。



2 各作型のポイント

(1) 秋冬どり栽培

初期生育期が低温に当たるため、耐寒性のある品種を用います。

高温期は病害が発生しやすいため、排水対策に努めると同時に、病害発生前に、それぞれに応じた防除を行います。

30 を超えると、肥大も生長も衰えるため、夏季の高温に注意します。

(2) 秋まき夏どり栽培

低温期を経過するため晩抽性品種を用います。

梅雨後、高温期における過度の土寄せは軟腐病・白絹病の発生を助長するため、少量ずつ加減しながら行います。

(3) 各作型共通

播種量は少な目にした方が発芽が良好で、苗立ちのよい均一な育苗をすることができます。

酸性土を嫌うので石灰を忘れず施します。また、苗床におけるリン酸肥料の効果が高いため、過リン酸石灰などを施しておきます。

乾燥には比較的強いですが、水分過剰にはきわめて弱いので、保水・排水の適当なところで栽培します。

基肥は、生育初期には濃度障害がおりやすいため、多施用をさけ、全体の6割を目安にし、追肥に重点をおきます。

追肥は、土寄せ時に行い、緩行性肥料を3～4回に分けます。

土寄せが早すぎると生育が劣るため適期、適量に行います。

病害はべと病、黒斑病、さび病など、虫害は、アザミウマ、ハモグリバエなどの発生が多いので、早期に防除します。